

京都市地区小学校教科書選定委員会 答申

「音楽科」について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。
- 2 習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。
- 3 児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。
- 4 表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成に向け、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動が展開しやすいこと。
- 5 表現及び鑑賞領域と〔共通事項〕との関連が図られるとともに、我が国や郷土、諸外国の音楽文化や和楽器を含めた伝統音楽への関心を育む活動や教材が適切に取り上げられていること。
- 6 題材構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。
- 7 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- 8 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

調査研究の結果の概要

■教育出版「小学音楽 音楽のおくりもの」

新出の「音符、休符、記号や用語」について、ページ右側の欄に統一的に示されるなど、児童が視覚的にも確認しやすいよう設定されているが、巻末の「音符や休符、記号など」については、学年での関連学習ページが示されている程度で、学習内容の振り返りや基礎的・基本的な知識・技能の内容の定着を意図した工夫が乏しい。

題材構成については、題材の主要部分とは別に、オプション部分として歌唱・器楽教材や鑑賞教材の楽曲が充実しており、児童の実態に応じて弾力的に題材を構成することができるよう工夫がなされており、優れている。

一方、思考力、判断力、表現力等の育成に向けては、「まなびナビ」や「学び合う音楽」（中・高学年）において学びの過程が具体的に示されていたり、教材によっては設定されていなかったりと、児童が見通しをもって学習しづらい側面があるとともに、ワークシートも、気を付けるべき視点等があらかじめ表記されているなど、児童の思考する内容・幅が限定されてしまいがちになる。

探究意欲を高める工夫として、音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」として題材ごとに示し、中・高学年においては、児童が気付きを記入するメモ欄も設けられている。

また、体を動かしながら楽しめる楽曲が表現及び鑑賞領域ともに全学年を通じて取り上げられており、知覚・感受したことを言葉以外でも表現したりすることで、また、歌唱教材では作曲者のメッセージなどを知ること、技能面とは異なる視点での知覚・感受の力を深める工夫がなされている。

伝統音楽への関心を育むにあたっては、「日本のたいこ」（第2学年）で、日本の伝統楽器である和太鼓のことについて学習し、鑑賞したことを実際に表現できるよう、次時の教材を「おまつりの音楽をつくろう」に設定するなど、表現及び鑑賞領域との関連が図られるよう工夫されている。

全学年で全校合唱曲「さんぽ」を手話もしながら歌えるように歌詞に対応した手話が挿絵で示されるとともに、「小さな世界」（第3学年）では、「世界の子どもと歌でなかよくなろう」と呼び掛け、外国の児童のイラストや挨拶も掲載されるなど、音楽を通じて外国とのつながりを意識できるよう工夫されている。

■教育芸術社「小学生の音楽」

新出の「音符、休符、記号や用語」が「新しく覚えること」で明示され、新出事項を意識しながら、学習を進められるよう工夫されている。巻末の「いろいろな音符、休符、記号や用語」においては、学習の積み上げを意識して学習内容の振り返りとともに下学年での学習事項が分かりやすく示されるなど、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に向けた工夫がなされている。

全体的な題材構成としては、各学年巻頭での年間学習内容の提示、学年内での学習バランスの考慮、6年間を通じた系統的な領域・分野ごとの教材配置に加え、中学校も含めた9年間を通じた学びの連続性が強く意識されるとともに、表現及び鑑賞領域の学習において同じ視点で楽曲を捉えることができるなど、題材構成の系統性・発展性がよく工夫されており、優れてい

る。

思考力・判断力・表現力等の育成に向けては、全ての題材で学習目標や活動文が示され、児童が学習の見通しがもちやすく、また、各学年の題材ごとに、主体的な学習を促すコメントを児童の声として例示することで「何を学ぶのか」が分かりやすく提示されている。ワークシートでは音楽を形づくっている要素をポイントとして示しながら、鑑賞を通じて感じたことを感じたままに自由に記入させる工夫などがなされている。さらに、学んだことを関連付けたり活用したりすることができるよう、例えば、表現（歌唱分野）→鑑賞→表現（器楽分野）→表現（歌唱分野）と、表現領域と鑑賞領域の往還的な活用が図れるよう各教材を結び付けており、優れている。

日本の旋律の特徴を感じとり、日本の伝統音楽のよさを一層味わえるよう、「日本の音楽でつながろう」（第4学年）で、伝統楽器である「こと」を用いながら、鑑賞→「こと」の演奏→音楽づくりと関連付けた学習が展開できるなど、各学年の多くの題材で表現領域と鑑賞領域との適切な関連が図られるなど工夫されており、優れている。

「音楽でみんなとつながろう」（第2学年）の楽曲では、様々な外国の挨拶に加え、日本語での挨拶が手話で示されているとともに、第6学年でブラインドサッカー等を題材に取り上げ、音の働きや役割を考えることを通じて、他者への配慮・人権の尊重について考察させる工夫がなされている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点	教育出版	教育芸術
1	基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。	1 〔共通事項〕の適切な取扱い	○	○
		2 表現及び鑑賞の活動のポイントの表記	○	○
		3 音符・休符・記号や音楽に関わる用語についての明記	△	○
		4 歌い方や楽器の奏法に関わる表記	○	○
2	習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮がされていること。	1 音楽科の特質に応じた言語活動の充実	○	○
		2 思考、判断し、表現する一連の過程設定の工夫	△	○
3	児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。	1 児童の発達段階を踏まえた内容設定と6年間を見通した題材設定	○	◎
		2 音楽的な見方・考え方を重視した学習展開	○	○
		3 音楽経験と生活の中にある様々な音や音楽との関連	○	○
4	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成に向け、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動が展開しやすいこと。	1 知覚・感受したことと表現及び鑑賞活動との関連	○	◎
		2 児童の思いや意図を意識した教材の明示	○	○
		3 児童の音楽的な見方・考え方が深まる教材の明示	○	○
5	表現及び鑑賞領域と〔共通事項〕との関連が図られるとともに、我が国や郷土、諸外国の音楽文化や和楽器を含めた伝統音楽への関心を育む活動や教材が適切に取り上げられていること。	1 日本の伝統的な音楽に関わる教材の充実	○	○
		2 和楽器に関する教材の充実	○	○
		3 表現領域と鑑賞領域との適切な関連	○	◎
6	題材構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮がされていること。	1 題材構成の系統性・発展性	○	◎
		2 他教科や教育課題等との関連	◎	○
		3 他校種との接続	○	○
		4 家庭・地域との連携	○	◎
7	基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。	1 人権教育の推進	○	○
		2 道徳教育の推進	○	○
8	表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1 文章や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさの工夫	○	○
		2 ユニバーサルデザインの視点	○	○
		3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○
		4 用紙、インク等の環境面への配慮	○	○

【音楽】観点別資料

【選定の観点1】

基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○見開きごとに〔共通事項〕で示されている音楽を形づくっている要素が「音楽のもと」として示され、中・高学年では、児童が気付きを記入するメモ欄も設定されるなど工夫がなされるとともに、巻末においても、音楽を形づくっている要素がイラストと共に示され、学習したことを振り返ることができるよう工夫されている。 ○教材ごとに学習目標が示されて、題材のねらいに即した学習が展開できるよう工夫されるとともに、「まなびナビ」や「学び合う音楽」で具体的な活動例が示され、吹き出しなどで活動ポイントも示されるなど、児童が見通しをもちながら、音楽を形づくっている要素と関連した学習ができるよう工夫されている。 ○新出の「音符、休符、記号や用語」について、ページ右側の欄に統一的に示されるなど、児童が視覚的にも確認しやすいよう設定されているが、巻末の「音符や休符、記号など」については、学年での関連学習ページが示されている程度で、学習内容の振り返りや基礎的・基本的な知識・技能の内容の定着を意図した工夫が乏しい。また、長調と短調の和音が比較しやすく提示されているものの、基本形ではなく転回形で示されることで、児童にとって新出事項の理解が深まりづらくなっている。 ○基礎的な歌唱技能を身に付けるためのポイントや常時活動が「スキルアップ」や「歌声」で示され、繰り返し学習できるよう工夫されるとともに、関連題材に加え、巻末の「楽器図鑑」にも楽器や奏法について写真で分かりやすく示されるなど、楽器の扱い方が理解しやすいよう工夫されている。	○見開きごとに〔共通事項〕で示されている音楽を形づくっている要素が示されるとともに、巻末の「ふり返りのページ」においても、改めて〔共通事項〕が一つ一つ、教科書該当ページも含め提示されるなど、具体的な学習内容を振り返りやすいよう工夫されている。 ○題材のねらいに即した学習が展開できるよう、教材ごとに学習目標や活動内容が示されるとともに、独自のキャラクターを用いて活動ポイントを示すなど、児童が意欲をもって音楽を形づくっている要素と関連した学習ができるよう工夫されている。 ○新出の「音符、休符、記号や用語」が「新しく覚えること」で明示され、新出事項を意識しながら、学習を進められるよう工夫されている。また、巻末の学年で学習した「いろいろな音符、休符、記号や用語」において、学習内容の振り返りとともに、下学年での学習事項が分かりやすく示され、学習の積み上げが意識されるなど、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に向けて工夫されている。 ○「歌声」で基礎的な歌唱技能を身に付けるためのポイントについて、写真等を用いて、学年間を通じた系統的な学習展開が設定されるとともに、楽器演奏については、楽器の持ち方、演奏の仕方や指遣いが示されるなど、楽器の扱い方の理解や基礎的な奏法を身に付けることができるよう配慮されている。

※〔共通事項〕：「A表現」「B鑑賞」の指導を通じて、下記の2点を身に付けることができるよう指導する。

①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じとりながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考えること。

②音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

※音楽を形づくっている要素

小学生の発達の段階において指導することがふさわしいものを、「ア 音楽を特徴付けている要素」・「イ 音楽の仕組み」の2つに分け、適切に選択したり関連付けたりして指導する。

ア 音楽を特徴付けている要素：音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど

イ 音楽の仕組み： 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など

【選定の観点2】

習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○「まなびナビ」(低学年)や「学び合う音楽」(中・高学年)での学習のねらいに則した話し合い活動や、巻末の「音楽を表すいろいろな言葉」での学習を通じて、豊かな言語活動が展開できるよう工夫されている。また、言葉だけでなく、音を媒介としたコミュニケーションが図れるよう、「スキルアップ」や音楽づくりの教材においては、音楽科の特質に応じた言語活動が、さらに「音のスケッチ」の音楽づくりや鑑賞の教材では、自分の考えを基にした言語活動が展開できるよう工夫されている。 ○主体的な学びを引き出す「まなびナビ」や「学び合う音楽」(中・高学年)で学びの過程が具体的に示されていたり、教材によっては設定されていなかったりと、児童が見通しをもって学習しづらい側面があるとともに、ワークシートも児童が自由に感じとったことを記入するのではなく、気を付けるべき視点等があらかじめ表記されるなど、思考する内容・幅が限定されてしまいがちになる。 ○体を動かす活動を取り入れながら、旋律の流れを理解できるよう工夫されているが、旋律線は鑑賞におけるポイント等を捉えづらい表記となっている。	○独自のキャラクター等を用いて吹き出し形式で話し合う視点や工夫例が示され、学習のねらいに則した活動ができるよう工夫されるなど、スムーズに自分の思いを話すことができるよう配慮されている。音楽づくりの教材やコラムにおいて、音を媒介としたコミュニケーションが図れるよう、ヒントとなる言葉が示され、音楽科の特質に応じた言語活動が展開できるよう工夫されているとともに、歌唱や音楽づくり、鑑賞の教材で、児童が感じたことなどを書き込む欄が設けられ、自分の考えを基にした言語活動が展開できるよう工夫されている。 ○全ての題材で学習目標や活動文が示され、児童が学習の見通しがもちやすく、学んだことを関連付けたり活用したりすることができるよう、音楽を形づくっている要素を中心に各教材を結びつけた題材構成である。また、ワークシートでは音楽を形づくっている要素をポイントとして示しながら、鑑賞を通じて感じたことを感じたままに自由に記入させる工夫など、思考力・判断力・表現力等の育成につながる工夫がなされている。 ○旋律の特徴が旋律線で示されていることで視覚的に変化などを捉えることができ、演奏の仕方及び楽器の音色までイメージしやすいよう工夫されており、楽曲の特徴等についての思考が働きやすい。

【選定の観点3】

児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○全学年に児童の主体的な学びを引き出す「まなびナビ」(低学年)・「学び合う音楽」(中・高学年)が設定され、児童が各題材についての学習の見通しをもちやすいよう工夫されている。また、音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」として題材ごとに示し、中・高学年では児童が気付きを記入するメモ欄も設けるなど、探究意欲を高める工夫がなされている。 ○低学年では音や旋律に合わせて体を動かしながら鑑賞する活動を通して、旋律の移り変わりなどへの気付きを促すとともに、中学年以上では、共通教材に歌詞の内容にあった写真が折り込みで掲載され、歌詞の表す情景と表現について児童が主体的に話し合えるよう工夫が図られている。また、巻末資料の「音楽を表すいろいろな言葉」は、各教材で児童が感じ取ったことなどを話し合う際の手がかりとなっている。 ○「いいおとみつけて」(第1学年)では、一つの楽器からいろいろな音色を見つける活動において、音色や強弱などについての主体的な学習が展開できるとともに、見つけた音を友達とつなげたり、リズムを組み合わせる音楽をつくったりする活動を通して、音楽を形づくっている要素を児童同士が対話する学習ができるよう工夫されている。	○各学年の題材ごとに、主体的な学習を促すコメントを児童の声として例示することで「何を学ぶのか」が分かりやすく提示されるなど工夫されている。また、学びの関連付けを深めるために、同じ音楽を形づくっている要素を軸とし、例えば、表現(歌唱分野)→鑑賞→表現(器楽分野)→表現(歌唱分野)と、題材の中でも学んだことの往還的な活用が図れるよう工夫されており、優れている。 ○各学年を通じて、音や音楽を体の動きで感じ取りながら学習することや、グループでの音楽づくりなど、児童がより主体的・対話的な学びを深める工夫がなされている。また、音楽の専門家からのメッセージや「詩と音楽の関わりを味わおう」(第5・6学年)では作詞者・作曲家・演奏者のそれぞれの意図を考察したり、表現するにあたっての工夫を検討したりするなど、楽曲等への理解を深める工夫が図られている。 ○「いろいろなリズムを感じ取ろう」(第4学年)では、言葉とリズムを使ってリズムアンサンブルをつくる学習が設定され、既習事項をベースに、児童の生活実態に応じたテーマや言語表現を選択するなど、児童の主体的な学びにつながる工夫がなされている。

【選定の観点4】

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成に向け、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動が展開しやすいこと。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○体を動かしながら楽しめる楽曲が表現及び鑑賞領域ともに全学年を通じて取り上げられており、知覚・感受したことを言葉以外でも表現したりすることで、また、歌唱教材では作曲者のメッセージなどを知ることで、技能面とは異なる視点での知覚・感受の力を深める工夫がなされている。 ○「声による音楽づくり」（第1学年）からの他学年の表現・鑑賞学習への展開や、鑑賞した楽曲にちなんだ曲を鑑賞学習後に演奏するなど、児童が思いや意図を生かして学ぶことができるよう構成されている。 ○鍵盤ハーモニカの学習（第1学年）では、入門期より3本の線が書き込まれており、音の高さが捉えやすく工夫されている。また、第2学年以降では、導入部分に「スキルアップ」が設定され、アンサンブルの基本となる拍感や、リズムのスキルを定着させる学習など、音楽的な見方・考え方につながる基礎的な力を育めるよう工夫されている。	○全学年を通じて、既習事項を振り返る「おもいだそう」が設定されており、学びを積み上げやすい工夫がなされている。また、各題材では音楽を形づくっている要素が学習の軸として設定され、表現及び鑑賞領域の学習において同じ視点で楽曲を捉えることができるなど工夫されており、優れている。 ○音楽づくりの学習では、学習の進め方が分かりやすく提示され、児童の思いや意図を引き出し、表現しやすい内容であるとともに、歌唱の学習では、紙面の構成上、児童の思いや意図を知識・技能の習得につなぐことのできるよう工夫されている。 ○感じ取った旋律の特徴を児童が共有するための具体的な掲示物の例示や、「そだてよう」で常時活動の例として示されているリズムの学習が音楽の見方・考え方を働かせるヒントとなるなど、音楽的な見方・考え方につながる基礎的な力を育めるよう工夫されている。

【選定の観点5】

表現及び鑑賞領域と〔共通事項〕との関連が図られるとともに、我が国や郷土、諸外国の音楽文化や和楽器を含めた伝統音楽への関心を育む活動や教材が適切に取り上げられていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○歌唱共通教材は、学習内容に即した題材の中で扱われているほか、歌詞から想像される季節感や情景を重視した「にっぽんのうた みんなのうた」に配置されるとともに、季節や日本語の美しさなどに触れることのできる楽曲や、各学年で日本の伝統的なわらべ歌・民謡や各地の伝統祭事等の郷土芸能に係る題材や狂言師からのメッセージが掲載されるなど、児童が伝統音楽への親しみを深められ、伝統と文化の尊重や郷土を愛する心を育むことができるよう工夫されている。 ○「君が代」は、楽譜・歌詞・簡単な歌詞の大意・関連写真が掲載されている。 ○「日本の楽器をたずねて」（第4・5学年）や「日本の楽器の音色を味わってきこう」（第6学年）で、しの笛・箏・尺八が取り上げられるとともに、様々な種類の和太鼓の写真（第2学年）も掲載されるなど、和楽器や日本の伝統楽器に関する理解を深める工夫がなされている。 ○世界のいろいろな歌（第3学年）、リズム（第4学年）、声・楽器（第5学年）を取り扱うとともに、学習したことをグループで話し合う活動を設定するなど、音楽文化の多様さや豊かさへの気づきを促している。 ○「日本のたいこ」（第2学年）で、日本の伝統楽器である和太鼓のことについて学習し、鑑賞したことを実際に表現できるよう、次時の教材を「おまつりの音楽をつくろう」に設定するなど、表現及び鑑賞領域との関連が図られるよう工夫されている。	○各学年で日本の伝統的なわらべ歌・民謡や郷土芸能の題材等が掲載され、巻末や裏表紙では、日本の古典芸能の歴史や伝統音楽への興味・関心を高める教材や写真が掲載されるとともに、「歌いつごう 日本の歌」では、共通教材以外にも古くから歌い続けられてきた日本の音楽が掲載されている。また、児童の発達段階に応じて、音楽が生活の中に根付いている様子の分かる写真や、郷土の音楽を身近に感じられるような活動を取り入れた題材が系統立てて設定されていることで、児童の伝統音楽への理解を深められるよう工夫されている。 ○「君が代」は、全学年で楽譜・歌詞・簡単な歌詞の大意と共に、写真やコラムも掲載され、他国の国歌も尊重する態度を養えるよう配慮されている。 ○伝統楽器の「こきりこ」「びんざさら」「太鼓」「ふえ」「ぼうささら」「くわがね」「つづみ」が紹介され、日本の民謡の特徴を感じとり、地域に伝わる音楽への親しみを深める工夫や、「日本の音楽でつながろう」（第4学年）では「こと」を実際に演奏する学習内容とするなど、和楽器に関する教材の充実や日本の伝統楽器への理解を深める工夫がなされている。 ○「世界の国の踊り」（第2学年）や「世界の国々の音楽」（第6学年）を取り扱うとともに、学習を基にして世界の音楽や楽器の調べ学習を促すなど、音楽文化の豊かさへの気づきや音楽への親しみをより深めるための工夫が図られている。 ○「日本の音楽でつながろう」（第4学年）で、伝統楽器である「こと」を用いながら、日本の旋律の特徴を感じることができるよう、鑑賞→「こと」の演奏→音楽づくりと関連付けた学習が展開できるなど、日本の伝統音楽の良さを一層味わえるよう、各学年の多くの題材で表現領域と鑑賞領域との適切な関連が図られるなど工夫されており、優れている。

【選定の観点6】

題材構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○領域・分野ごとに基づき、発達段階に応じた教材の配置がなされるとともに、低・中・高学年の2学年ごとの関連題材の設定等を踏まえて、6年間の学習の積み上げを意識した系統的な題材構成が図られている。 ○当該学年での既習曲を英語歌詞で学習するなど、全学年で英語の歌が取り上げられていたり、国語科や算数科などとの関連のある教材曲が選択されたりするなど、他教科等との関連が図られている。また、題材の主要部分とは別に、オプション部分として歌唱・器楽教材や鑑賞教材の楽曲が充実しており、児童の実態に応じて弾力的に題材を構成することができるよう工夫がなされており、優れている。 ○児童に幼児期でのなじみの深いイラスト教材等を活用しながら、身体性を生かした学習展開とするなど、スタートカリキュラムが意識され、校種間連携に配慮されている。 ○地域の民謡や祭囃子、遊び歌などが教材として設定されていたり、コラムで音楽と人々の暮らしとの関わりが示唆され、児童が地域社会の大切さを感じたりできるよう工夫されるなど、地域文化等への理解を深める構成となっている。	○各学年巻頭での年間学習内容の提示、学年内での学習バランスの考慮、6年間を通じた系統的な領域・分野ごとの教材配置に加え、中学校も含めた9年間を通した学びの連続性が強く意識されるなど、題材構成の系統性・発展性がよく工夫されており、優れている。 ○外国語活動の早期化を踏まえ、平易な英語歌詞を選曲するなど、全学年で音楽を通じて英語に慣れ親しむ工夫が図られている。また、民謡や郷土音楽など、幅広い題材が設定されるとともに、題材の主要部分とは別に、巻末に歌唱や器楽教材の楽曲が掲載されるなど、児童の実態に応じて、柔軟な題材構成とすることができるよう工夫されている。 ○スタートカリキュラムに配慮し、乳幼児期に歌った経験のある題材や友達・グループでの活動も取り入れ、集団での学習への円滑な移行を促すとともに、体を動かしながら歌える遊び歌を設定するなど、校種間連携に配慮されている。 ○地域の人や家族に楽曲に関するインタビューや様々な歌を教わることの投げ掛けのほか、卒業を迎えるにあたっての感謝の意を家族等に音楽でどのように表現するかを考察させるなど、音楽が多くの人々との心のつながりを生むゲートであることを児童に気付かせるよう配慮されている。また、地域に伝わる音楽の調べ学習なども設定されるなど工夫されており、優れている。

【選定の観点 7】

基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○全学年で全校合唱曲「さんぽ」を手話もしながら歌えるように歌詞に対応した手話が挿絵で示されるとともに、「小さな世界」(第3学年)では、「世界のともだちと歌でなかよくろう」と呼び掛け、外国の児童のイラストや挨拶も掲載されるなど、音楽を通じて外国とのつながりを意識できるよう工夫されている。 ○教材曲や作詞者・作曲者にふりがなが付されているとともに、作品には作者が必ずいて、作者の創造性を尊重することの大切さを意識させることや、パリアンアートを採用するなど、人権教育等との関連が図られている。 ○震災後に行われた演奏団体等による活動を掲載し、音楽の社会に果たす役割に気付かせる配慮がなされている。 ○第6学年の巻頭には、音楽を通じた人々とのふれ合いに関する全盲のピアニストからのメッセージが掲載されるなど、道徳教育を視野にいたった工夫がなされている。	○「音楽でみんなとつながろう」(第2学年)の楽曲では、様々な外国の挨拶に加え、日本語での挨拶が手話で示されているとともに、第6学年でブラインドサッカー等を題材に取り上げ、音の働きや役割を考えることを通じて、他者への配慮・人権の尊重について考察させる工夫がなされている。 ○作曲者からのメッセージと共に、作詞者・作曲者の楽曲を制作する上での工夫について考える対話的な活動が設定されるなど、作者の創造性を尊重することの大切さに気付かせる配慮がなされている。 ○防災・復興と音楽との関わりを特集ページで取り上げ、音や音楽と生活や社会との関わりを踏まえ、「音楽に何ができるか」ということを児童に考察させる工夫がなされている。 ○古典と音楽を対比しながら、時代を超えて受け継がれる伝統芸能の「こころ」が歌舞伎役者からのメッセージとして掲載されていることなどが、新しい価値や文化を生み出す担い手であるとの意識を醸成する手立てとなっている。

【選定の観点 8】

表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○低学年は幅の広いA B版、中・高学年はサイズの大きいA 4変型版で、文字の大きさ、文字間や行間も読みやすく、配色やレイアウトの工夫が図られるとともに、UDフォントやCUDなどユニバーサルデザインにも配慮されている。 ○造本は堅牢で、再生紙や植物油インキの使用など環境にも配慮されている。	○A 4変型判で、サイズが大きい。文字の大きさ、文字間、行間は読みやすく、優しく柔らかい色調であり、配色や囲みなどレイアウトが工夫されるとともに、特別支援教育の専門家による校閲がなされるなど、色覚特性やユニバーサルデザインにも配慮されている。 ○造本は堅牢で、再生紙や植物油インキの使用など環境にも配慮されている。

※CUD：カラー・ユニバーサル・デザイン、UDフォント：ユニバーサル・デザインフォント